

中国都市部における公園での行動観察 -上海、蘇州、南昌、成都を対象として-

山梨大学大学院医学工学総合教育部
山梨大学大学院医学工学総合研究部

○学生会員 菊山 幸輝
正会員 大山 勲

1.はじめに

(1) 背景

アジアモンスーン地域には多様な水辺文化が存在していた^{1) 2)}。日本では高度経済成長による都市化や水質悪化をうけて水辺文化が希薄になってしまった。中国都市部においても、1978年以來の改革開放政策による社会構造の転換により、都市化が進み水辺環境が変化している。それに伴って水辺に対する住民の意識が変化し、公園の設計や利用形態も変化している。

(2) 目的

中国都市部の1978年以降に整備された水辺の公園を対象とし、行動観察を行い、活動内容及び空間の状態を把握することを目的とした。

2.中国の現状

1949年の建国以来社会主義国家であった中国は、1978年以降、改革開放路線をとっている。それにより経済が活発化し、社会インフラ整備を中心とした都市再開発が進行している。これにより、東部沿岸と中・西部内陸との経済格差が広がっている³⁾。さらに、短期間に急激な都市化のため市街地形成上の問題が起こっている。

3.調査対象地

東部沿岸都市の「上海」、旧来より水辺文化が多様であった水郷都市の「南昌」、中・西部内陸都市の「成都」、都市化される以前の伝統的水辺空間が残る「蘇州市及びその周辺」で調査を行った。

4.調査結果

公園での活動は出勤前の早朝、帰宅後の夕方に活発にみられる。そこで行われる活動の種類、活動が行われている空間に注目し、観察した。

(1) 活動

a) 上海

太極拳、演舞、散歩、体操、バトミントン、談笑。

b) 南昌

太極拳、演舞、散歩、体操、バトミントン、談笑、路上販売、健康診断、針治療、犬が好きな人の集会、散発、演奏会、新聞を読む、釣り。

c) 成都

太極拳、演舞、散歩、ダンス、体操、談笑、新聞を

読む、マッサージ、健康診断。

(2) 設計

a) 上海

近年の急激な都市化の影響により、中心部では人口密度が高くなり⁴⁾、公園空間がとりにくくなっている。そのため、河川を埋め立て、沿岸を公園とする整備がおこなわれていた。

親水性を意識した設計になっている。しかし、少ない用地から、広い空間がなく、そのため多くの人々は水辺ではなく、公園をはさんで河川と反対側の管理用道路空間を利用していた。

b) 南昌

水郷都市であったという歴史から、積極的にウォーターフロントの住宅開発を行っており、それにとまう近代的親水公園の整備に意欲的である。中国の歴史を意識した公園の整備も行われていた。

公園空間の中には植栽よりもオープンスペースが多く取られている。今回の調査の中では、もっとも多くの人がみられ活動も活発だった。

水質悪化の原因であった魚の養殖場をやめて、親水公園をつくる計画が持ち上がっている。



写真1 上海早朝の体操



写真2 早朝の散歩の様子



写真3 南昌早朝の
路上販売



写真4 南昌早朝の針治療



写真5 成都早朝の剣舞

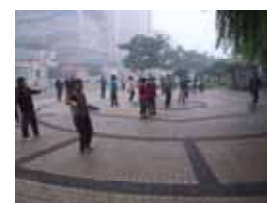


写真6 成都早朝のダンス

Key Word :水辺空間 伝統 公園

連絡先 : 〒400-8511 山梨県甲府市武田 4-3-11 tel:055-220-8598 e-mail:g05mc012@yamanashi.ac.jp

c) 成都

市街地の中心を流れる河川が 1992-1997 の 5 年間で大規模再開発された³⁾。それにより、洪水の懸念、老朽化していた住宅地の問題も解決された。

整備時期が他の 2 都市より古いため、親水性への配慮は特にみられなかった。公園空間よりも、通路空間が多くとられていた。

5. 中国の伝統的水辺空間

都市化以前の中国における水辺文化を知るために、蘇州市及びその周辺の同里鎮、周庄鎮を観察した。

(1) 活動

水路が縦横に張り巡らされ、輸送路として用いられている。しかし、観光遊覧船、みやげ物店などもみられ、テーマパーク化してしまい、水辺文化が薄れてしまっている。観光地化していない場所では洗物、川辺での談笑を楽しむ人々、涼をとる人々などがおり、水辺と生活が結びついた活動が見られた。

(2) 設計

垂直護岸になっている。これは、工事が容易であること、河岸に平坦な土地が広くとれることが理由としてあげられる。

水に近づけるような階段、木陰をつくる植栽、楼閣、ベンチ、河川沿いの道路、荷揚げのための広い間口の家、水を眺めるための窓のある家など水辺と生活の結びついた設計が見られた。

6. 考察

(1) 活動

3つの都市間での大きな活動内容の差異はみられず、水辺と生活が結びついた活動はあまり見られなかった。それは、都市化によって水辺と生活の結びつきが弱まり、地域独自の水辺文化が失われつつある結果であると考えられる。

多数の人が交流・参加する型の活動を好む背景には、地域のコミュニティが強いことと、住環境が貧困であるため、公園空間・水辺空間が居住空間の延長と捉えてられているためと考えられる。多くの活動が水辺文化の影響の薄いものであったのは、都市化により水辺と生活の結びつきが弱まり、地域のコミュニティ活動に人々の意識の重点が置かれているためと思われる。



写真7 周庄の遊覧船



写真8 同里の洗濯

(2) 設計

3都市の公園の整備された時代により、設計に差異がみとめられた。しかし、どれも水辺文化を意識しない近代的で単純な設計であり、人々もこれを受け入れている様に見られた。これは人々が求める水辺空間の役割が、旧来は水辺と生活の結びつきであったのに対し、現在は住宅の高層化により失われた開放的空間としての機能に重きがおかれているためと思われる。

以下に人々が多かった場所の特徴を挙げる。いずれも、親水設計の良し悪しではなく、活動のしやすい箇所であるのが特徴である。

a) 広い空間

太極拳、演奏などは多人数にわたる。そのため、集まるために広い空間を要する。

c) 電源がとれる場所

太極拳、演舞を行うのに音楽を流す必要がある。そのための機材の電源が必要であり、様々な工夫をこらして、電源を確保していた。

b) 高欄・転倒防止柵・樹木

体操を行うのに際して、足を高いところにかけてり、もたれたりするために高欄・転倒防止柵・樹木が利用されていた。

7. おわりに

(1) 研究の結果

中国都市部の公園で、活動の内容と活動が行われている空間の状態を把握した。結果は、急激な都市化により、活動・設計は伝統的空間で見られたものとは異なり、水辺文化の希薄なものであった。

(2) これからの水辺空間との関わり

生活様式の変化にともなう、水辺と生活の結びつきの変化、市化による水質悪化、それらによって人々の意識が水辺文化から遠ざかってしまったと考えられる。それによって、アノニマスな水辺空間デザイン・水辺文化は失われつつあるようだ。

しかしながら、多数の人が水辺の公園で活動している事実は、都市の構造上やむを得ない結果なのではなく、潜在的に水辺が持つ魅力の結果であるのではないかと期待する。

【参考文献】

- 1) 陣内秀信, 中国の水郷都市 蘇州と周辺の水文化, 1993 年, 鹿島出版社
- 2) 陣内秀信, エコロジーと歴史にもとづく地域デザイン, 2004 年, 鹿島出版社
- 3) 楊慶雲, 市街地開発整備の事業化システムの考察, -土地利用権回収・譲渡方式と土地区画整理事業方式を中心として-, 2004 年, 山梨大学大学院工学研究科, 博士論文
- 4) 宮岡邦任・谷口智雅・坪井聖太郎, 上海の都市化と水環境, 2006 年, 法政大学大学院エコ地域デザイン研究所